令和８年度９月試験研究業務月報

情　報

「丹後とり貝」の陸上避暑飼育試験を実施

「丹後とり貝」は、近年の夏の著しい高温化の影響で大半が斃死する事態に陥っています。今後も毎年のように同様の高水温が発生することを考慮し、早急な対策が必要です。

そこで、海洋センターでは今夏、水産庁補助事業を活用し、現場即応を想定した大規模な高水温対策飼育技術の実証試験を実施しました。具体的には、陸上水槽で海水冷却装置又はエアコンにより水温を調温し、生海水（餌となる植物プランクトンを含む）かけ流し又はろ過海水に人工培養餌料を添加しながら、水温が高くなる８月から９月にかけて、トリガイを飼育し、飼育水温とトリガイの成長、生残を追跡しました。その結果、水温が 30℃近い状態でも、飼育装置によりトリガイの成育に適した 25℃付近で維持できることが分かりました。一方で、餌環境や水質に関する課題も明らかになりました。

以上のことから、飼育条件を再検討する必要があるものの、水温を下げる技術としては比較的容易に現場に展開できることが示されました。今回の成果を基に、普及部門と連携しトリガイ養殖地先での陸上避暑飼育の展開に繋げていきます。



飼育装置①
（生海水かけ流し＋海水冷却装置）



飼育装置②
（ろ過海水止水・人工培養餌料＋エアコン）

海洋センター